

都市再生整備計画

湯の川地区(第3回変更)

北海道 函館市

令和6年12月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☐
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☒

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	北海道	市町村名	函館市	地区名	湯の川地区	面積	54	ha
計画期間	令和3年度～令和7年度	交付期間	令和3年度～令和7年度					

目標
・市民と観光客がともに集い、様々な交流が生まれる賑わいのある地区 ・観光客の満足度が極めて高い、おもてなしに溢れる地区 ・海外からの観光客も安心して快適に楽しめる地区

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本市では、中心市街地活性化法に基づき、平成11年5月に函館駅前・大門地区の約48ヘクタールの区域を対象に中心市街地活性化基本計画を策定し、各種施策を展開してきたが、長引く景気低迷、都市機能の拡散、大規模集客施設の郊外立地、さらには少子高齢化などに伴う人口減少等により、函館駅前・大門地区のみならず本町・五稜郭・梁川地区などを含めた函館市全体が衰退してきている状況にあったため、人口減少時代に向けた新たなまちづくりの方向性として、市街地の拡大抑制や既存ストックの活用、都市機能の集約化、公共交通の維持・充実などに取り組むコンパクトなまちづくりを進めることとし、中でも中心市街地は経済および社会の発展に果たす役割が非常に重要であると位置づけたうえで、改正中心市街地活性化法に基づく新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、平成25年に計画認定を受けて、平成29年まで事業を進めたところ、年間観光入込客数や歩行者通行量は増加し、目標数値は達成された。 一方、湯の川地区は、中心市街地には位置づけていないが、函館空港から車で5分というアクセスの良さと、温泉と料理が楽しめる宿が集まっているため古くから賑わっている地区であるが、旅行形態が団体旅行から個人旅行にシフトするなどの影響により同地区の入込数は減少傾向にあることから、その増加策が急務となっている。 同地区は、函館新外環状道路の開通や函館空港の民営化、さらには北海道新幹線の札幌延伸など、その取り巻く環境が大きく変化するなか、インバウンドを含めた交流人口の拡大などによりさらなる活性化を図る必要があるが、ハード面においては道路照明灯もまばらで薄暗く、歩道のインターロッキングブロックは老朽化し、波打っている状況であることから、観光客が安全にまちあるきすることができる魅力ある道路の整備が求められている。また、ソフト面では、冬季観光の底上げのための市内主要観光エリアにおけるイルミネーションイベントが同地区で実施されていなかったため、令和元年度に地域と一体となったイルミネーションイベントを初開催し、その後は段階的に拡充を図ることとしている。

課題
・地区内の道路は、歩道のインターロッキングブロックが老朽化し、また波打っており、歩きにくい。 ・地区内の道路は、道路照明灯がまばらで薄暗く、観光客が安心して歩くことができない。 ・街路樹のクロマツ等は、一部が枯木となっており、街のロケーションを活かしきれていない。

将来ビジョン(中長期) 【函館市総合計画】 ・地理的、文化的、歴史的資源を有しており、陸海空の交通の要衝など優位性を最大に活かし、まちづくりを進めます。 ・北海道新幹線開業効果を持続させ、国内外の観光脚やビジネス客などの交流人口を拡大し、その経済効果を各産業へ波及させる取り組みを進め、まちの賑わいを再生し、未来へ引継ぎます。 【都市計画マスタープラン】 ・本地区は、うるおいのある開放的な道路空間の創出を図るため、景観に配慮した道路整備や街路樹の植栽、無電柱化などの整備を進めます。 【ガーデンシティ函館】 ・温泉街をそぞろ歩けるような環境づくり ・温泉街と商店街を繋ぐ動線の創造 ・温泉街をひとつの公園として考える
--

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画
滞在快適性等向上区域の考え方 市電湯の川温泉電停を拠点とし、電停を中心に放射状に伸びる市道および道道については、主要交差点までを目安に滞在快適性等向上区域を設定し、歩道の拡幅や照明灯等の設置により、快適で質の高い歩行者空間を確保し、居心地の良いまちなかを創出する。 滞在快適性等向上区域での取組 道道の歩道舗装のグレードアップを行うほか、市道の歩道拡幅や舗装のグレードアップ、照明灯設置や植栽を行い、ゆとりがあり歩きやすい歩行者空間を創出する。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
函館市観光入込客数の増加	人／年	函館市内の観光地を訪れる年間観光客数の比較	地区の賑わいの再生、歴史的資源を活用した魅力の向上	526万人	H30	550万人	R7
函館市平均宿泊数の増加	泊／人	函館市内における100人当たり宿泊数の比較	地区の賑わいの再生	127泊	H30	128泊	R7
湯の川温泉の観光入込み客数の増加	人／年	湯の川地区を訪れる年間観光客数の比較	地区の賑わいの再生、歴史的資源を活用した魅力の向上	100万人	H29	108万人	R7

計画区域の整備方針	
【市民と観光客がともに集い、様々な交流が生まれる賑わいのある地区】 ・宿泊施設の利用者のほか、函館アリーナや函館競馬場を利用した市民が、まちあるきを楽しめる魅力あるエリアを創出する。	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】 道路(市道中環状通, 市道温泉通, 市道湯浜通, 市道湯川1-25号線) 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽) 地域生活基盤施設(ポケットパーク, 情報板) 事業活用調査(湯の川地区活性化方策検討調査, 事業効果分析調査) 【関連事業】: 北海道 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設)
【観光客の満足度が極めて高い、おもてなしに溢れる地区】 ・まちあるきを行う観光客が、段差が少なく、夜間でも足下が明るい歩道で、隣接する川や街路樹などの自然を歩きながら楽しめるような整備を行う。	【基幹事業】 道路(市道中環状通, 市道温泉通, 市道湯浜通, 市道湯川1-25号線) 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽) 事業活用調査(湯の川地区活性化方策検討調査, 事業効果分析調査) 【関連事業】: 北海道 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設)
【海外からの観光客も安心して快適に楽しめる地区】 ・道路照明灯がまばらで薄暗く、観光客が安心して歩くことができない現在の道路に、美観を演出する街路樹や観光街路灯を配置し、海外からの観光客も安心して快適に歩くことができるよう整備を行う。	【基幹事業】 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽) 地域生活基盤施設(ポケットパーク, 情報板) 【関連事業】: 北海道 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設)
その他	
【地区の特色】 湯の川温泉は、北海道の三大温泉郷の一つで、古くから名湯として人々に親しまれており、エリア内でのイベントとして、湯倉神社で夏祭りや、松倉川河口で花火大会が開催されている。冬のイルミネーションイベント「湯の川冬の灯り」は、川沿いをライトアップし「和」の雰囲気が漂うよう、湯の川温泉をイメージした流水と扇の文様や、海や雪、梅や桜など10種類の灯籠円柱モニュメントの設置などが12～2月に開催されており、期間内には、地元グルメやスイーツ、温泉を楽しむまちあるきイベントも開催されている。 また、西部地区観光エリアとの移動にも利用できる路面電車停留所「湯の川温泉」も近く、足湯「湯巡り舞台」は地元、観光客問わず利用され賑わっている。 地区周辺には、車で5分で行ける函館空港のほか、大規模イベントやスポーツ大会に利用される「函館アリーナ」や、初夏に行われる函館競馬の会場となる「函館競馬場」、など立地条件は良い。 【まちづくりの住民参加】 ・地区内には、「温泉旅館協同組合」「商店街振興組合」等の団体により、温泉夜市や夏祭りなどのイベント開催により、にぎわいの創出に努力している。 ・代表する夏まつりとして、湯の川温泉花火大会が例年8月に開催されており、多くの人が訪れている。 ・平成17年度から町内会や団体の協力により「函館沿道花いっぱい道」として沿道美化活動(ボランティアサポートプログラム)が行われている。	

様式(1)-④-4

(金額の単位は百万円)

...A

2...B

|(参考)都市構造再編集中支援関連事業

(参考)関連事業

【凡例】

- 都市再生整備計画区域
- 滞在快適性等向上区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 国道

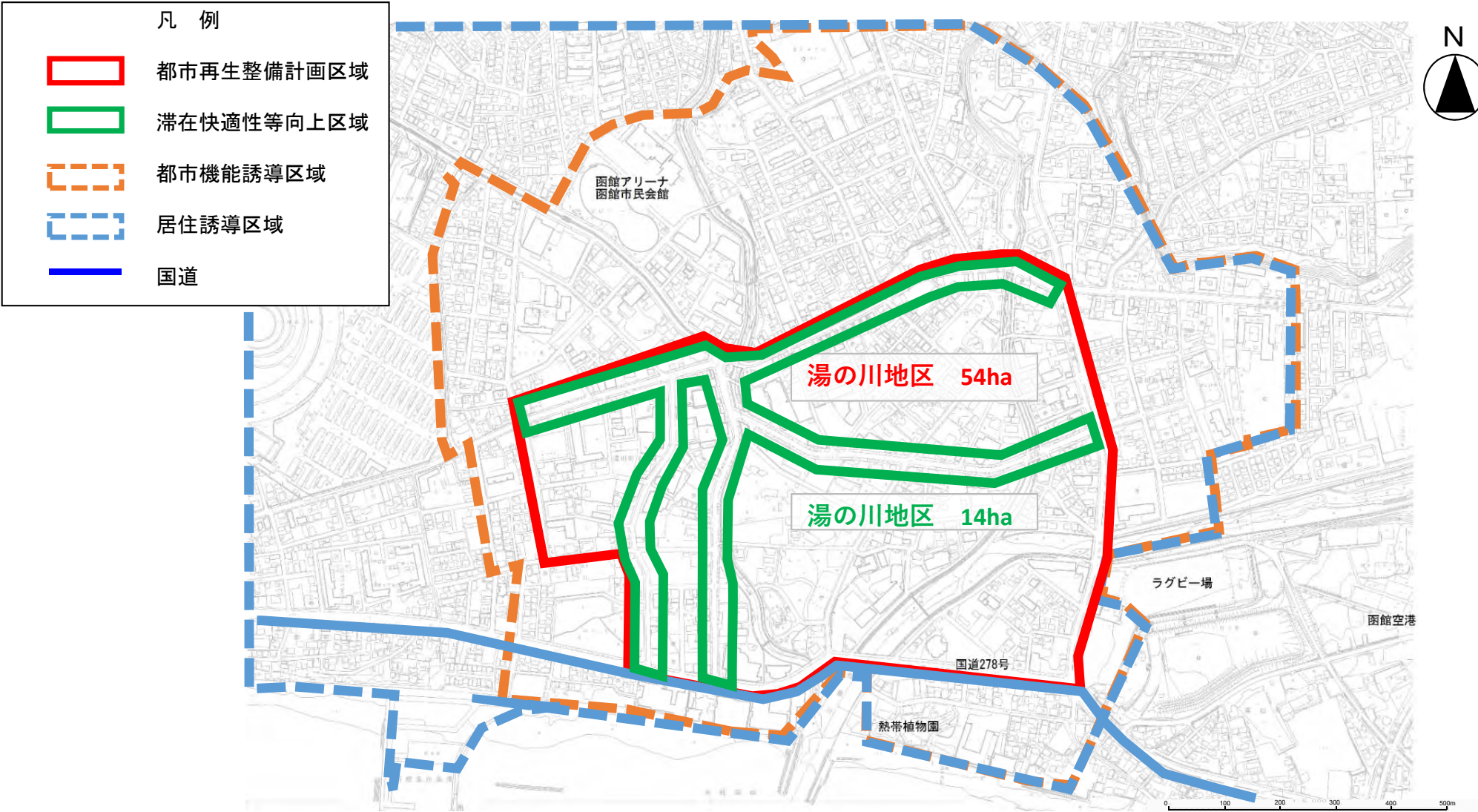
湯の川地区 54ha

湯の川地区 14ha

0 1,000 2,000 3,000m

湯の川地区(北海道函館市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	・市民と観光客がともに集い、様々な交流が生まれる賑わいのある地区 ・観光客の満足度が極めて高い、おもてなしに溢れる地区 ・海外からの観光客も安心して快適に楽しめる地区	代表的な指標	函館市観光入込客数の増加	人／年	526万人	(H30年度)	→	550万人	(R7年度)
			函館市平均宿泊数の増加	泊／人	1.27泊	(H30年度)	→	1.28泊	(R7年度)
			湯の川温泉の観光入込み客数の増加	人／年	100万人	(H29年度)	→	108万人	(R7年度)



まちなかウォーカブル推進事業事前評価シート

計画の名称:都市再生整備計画「湯の川地区」 事業主体名: 北海道函館市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○